

令和3年度 事後評価対象課題（令和3年度終了課題）

No.	タイプ	体制	採択年度		研究代表者	所属機関	研究開発課題名
【研究領域A】 治療ターゲット:がんの発症・進展に関わる代謝産物やタンパク質相互作用に着目した新規治療法の研究							
1	応用	ユニット型	平成28年度	-	秋山 徹	東京大学	がん幹細胞を標的とした分子標的薬の創製
2	応用	ユニット型	平成28年度	-	石川 冬木	京都大学	染色体ヒストンシャペロンを標的としたストレス反応制御による抗腫瘍剤の開発
3	応用	ユニット型	平成28年度	-	長田 裕之	理化学研究所	ケミカルバイオロジーを基盤としたがん代謝制御薬の開発
4	応用	ユニット型	平成28年度	-	北林 一生	国立がん研究センター	ヒストンアセチル化酵素複合体を標的とした新規治療薬の開発
5	応用	ユニット型	平成28年度	-	近藤 豊	名古屋大学	がん細胞の分化制御に関わるエピゲノムを標的とした革新的治療法の開発
6	応用	ユニット型	平成28年度	-	清水 重臣	東京医科歯科大学	がん細胞特異的に作用するオートファジー細胞死誘導化合物を用いた創薬開発
7	応用	ユニット型	平成28年度	-	進藤 英雄	国立国際医療研究センター	血小板活性化因子(PAF)シグナル遮断による神経因性がん疼痛克服:新規カテゴリー鎮痛薬開発提案
8	応用	ユニット型	平成28年度	-	鈴木 聡	神戸大学	癌抑制遺伝子を標的とする癌治療法の開発
9	応用	ユニット型	平成28年度	-	高井 義美	神戸大学	ネクチン関連分子と増殖因子受容体/インテグリンの相互作用を標的としたがん治療法
10	応用	ユニット型	平成28年度	-	高橋 隆	愛知県がんセンター	肺腺がんの生存シグナル維持機構に対する革新的分子標的薬の開発
11	応用	ユニット型	平成28年度	-	永井 良三	自治医科大学	転写因子KLF5の蛋白間相互作用阻害により癌細胞を選択的に抑制する新しい大腸癌治療薬の開発
12	応用	ユニット型	平成28年度	-	中山 敬一	九州大学	FOXK1によるCCL2発現調節機構を標的としたがん治療法の開発
13	応用	ユニット型	平成28年度	-	平尾 敦	金沢大学	代謝シグナルによる未分化性制御機構を標的とした新規がん治療法の開発
14	応用	ユニット型	平成28年度	-	増富 健吉	国立がん研究センター	TERT-RdRP阻害剤によるがん治療法の開発
15	応用	ユニット型	平成28年度	-	山本 雅之	東北大学	抗がん剤・放射線治療抵抗性がんを標的としたNRF2阻害剤の開発
16	応用	ユニット型	令和元年度	-	金井 好克	大阪大学	がん特異的アミノ酸輸送体を標的とした新規治療薬の研究開発
17	応用	ユニット型	令和元年度	-	菊池 章	大阪大学	難治性がんを対象とした新規抗体医薬品の開発研究
18	標的	ユニット型	令和2年度	一次	大木 理恵子	国立がん研究センター	希少がんである神経内分泌腫瘍の代謝特性の解明と新規治療標的の同定
19	標的	ユニット型	令和2年度	一次	佐々木 敦朗	慶應義塾大学	増殖ストレス緩和システムを標的とする新規がん治療戦略の確立
20	標的	ユニット型	令和2年度	一次	佐藤 礼子	東京薬科大学	がん治療における薬剤耐性阻害を旨とした転写因子ZIC5標的ヘテロ二本鎖核酸(HDO)の開発
21	標的	ユニット型	令和2年度	一次	田沼 延公	宮城県立がんセンター	食事介入を活用した、難治肺がんに対する新規代謝ターゲット治療
22	標的	ユニット型	令和2年度	一次	中西 真	東京大学	ミスフォールドタンパク質認識ドメインを利用した新たながん治療戦略の確立
23	標的	ユニット型	令和2年度	一次	服部 鮎奈	京都大学	がん細胞内アミノ酸代謝リプログラミングを標的とした治療戦略の開発
24	標的	ユニット型	令和2年度	一次	広田 亨	がん研究会	染色体動態制御システムの均衡破綻による致死性細胞分裂の誘導
25	標的	ユニット型	令和2年度	一次	福田 晃久	京都大学	クロマチンリモデリング因子と合成致死性を標的とした新規肺がん治療法の開発
26	標的	ユニット型	令和2年度	二次	加藤 真一郎	名古屋大学	低分化性悪性黒色腫におけるエピゲノム脆弱性と治療抵抗性制御機構の解明
【研究領域B】 異分野融合創薬システム:がん生物学と異分野先端技術の融合による新規創薬システムの構築とそれによるがん根治治療法の研究							
1	応用	チーム型	平成28年度	-	西山 伸宏	東京工業大学	DDS技術を基盤とした革新的がん治療法の開発
2	応用	チーム型	平成28年度	-	山田 泰広	東京大学	異分野先端技術融合による薬剤抵抗性を標的とした革新的複合治療戦略の開発
3	応用	チーム型	平成28年度	-	渡辺 恭良	理化学研究所	イメージング活用創薬の視点からの異分野技術融合によるシームレスな薬効評価システムの構築と実施
4	応用	ユニット型	平成28年度	-	川田 学	微生物化学研究会	がん-間質相互作用を利用した新規抗がん剤の開発基礎研究
5	応用	ユニット型	平成28年度	-	近藤 英作	新潟大学	標的細胞ホーミングペプチド創成技術による実効的なスキルス癌標的化PDCの開発
6	応用	ユニット型	平成28年度	-	坂本 毅治	関西医科大学	がん細胞・がん間質細胞特異的な酸素センシング機構を標的としたがん微小環境標的薬の開発
7	応用	ユニット型	平成28年度	-	佐藤 俊朗	慶應義塾大学	がん多階層フェノタイプの理解に基づいた先端的創薬システムの開発
8	応用	ユニット型	平成28年度	-	藤田 直也	がん研究会	腫瘍増殖・血行性転移を促進する血小板凝集促進分子ポドプラン/Aggrusを標的にした新治療法の開発
9	応用	ユニット型	平成28年度	-	松浦 栄次	岡山大学	深部・転移がんへのRadio-induced photodynamic (RIPD) - Theranosticsを実現する ⁶⁸ Zr標識・抗体担持生分解性キャリアの開発
10	応用	ユニット型	平成28年度	-	松島 綱治	東京理科大学	新規遊走シグナル制御分子群を標的とした抗がん剤の開発
11	応用	ユニット型	令和元年度	-	片桐 豊雅	徳島大学	がん抑制因子活性化を利用した治療耐性獲得乳がんに対する新規治療法開発
12	応用	ユニット型	令和元年度	-	藤堂 具紀	東京大学	がん生物学とウイルス学の融合による抗がんウイルス創薬システムの開発
13	応用	ユニット型	令和元年度	-	渡部 徹郎	東京医科歯科大学	口腔がんの微小環境ネットワークを標的とした新規治療法の開発

※研究領域B No.15削除

No.	タイプ	体制	採択年度		研究代表者	所属機関	研究開発課題名
14	標的	ユニット型	令和2年度	一次	池田 豊	筑波大学	ハイボキシアを標的とする分子標的プロドラッグの化学放射線療法への展開
15							
16	標的	ユニット型	令和2年度	一次	幸谷 愛	東海大学	劇症型NK白血病における独特なニッチの分子基盤解明とその制御法開発
17	標的	ユニット型	令和2年度	一次	園下 将大	北海道大学	新規膀胱がん動物モデルに立脚した膀胱がん組み合わせ療法の開発
18	標的	ユニット型	令和2年度	一次	中村 卓郎	がん研究会	骨軟部肉腫の悪化に関わる微小環境を標的とした治療開発
19	標的	ユニット型	令和2年度	一次	松永 行子	東京大学	がん微小環境模倣デバイスによる消化器がんの血管内外浸潤機構の理解
20	標的	ユニット型	令和2年度	一次	村上 誠	東京大学	細胞外脂質代謝酵素によるエクソソームの脂質修飾を介したがん微小環境の制御
21	標的	ユニット型	令和2年度	二次	水谷 泰之	名古屋大学	膀胱がんのがん関連線維芽細胞多様性の理解に基づく間質標的治療法の開発
【研究領域C】 免疫機能制御:体内のがん細胞を取り巻く環境制御と免疫応答効率化への革新的・基盤的治療法の研究							
1	応用	チーム型	平成28年度	-	西川 博嘉	国立がん研究センター	がん細胞および免疫応答解析に基づくがん免疫療法効果予測診断法の確立
2	応用	ユニット型	平成28年度	-	青枝 大貴	大阪大学	多様ながん種に適応可能な腫瘍環境標的型免疫賦活化療法の開発
3	応用	ユニット型	平成28年度	-	河上 裕	国際医療福祉大学	免疫チェックポイント阻害剤反応性を考慮したがん免疫微小環境とそれを反映する血液因子の解析による免疫制御分子の同定と制御法の開発
4	応用	ユニット型	平成28年度	-	坂口 志文	大阪大学	制御性T細胞を標的とした新規がん免疫療法の開発
5	応用	ユニット型	平成28年度	-	佐藤 克明	宮崎大学	免疫抑制性樹状細胞に発現する新規免疫チェックポイント分子の機能的同定とこれを標的としたがん免疫治療法の開発
6	応用	ユニット型	平成28年度	-	鳥越 俊彦	札幌医科大学	がん幹細胞とニッチに特異的な標的分子群の同定と免疫治療への応用
7	応用	ユニット型	平成28年度	-	本庶 佑	京都大学	抗PD-1抗体不応答性がん患者に有効な併用治療薬の開発
8	応用	ユニット型	平成28年度	-	松岡 雅雄	熊本大学	免疫抑制性受容体TIGIT阻害活性を有する小分子化合物の開発研究
9	応用	ユニット型	平成28年度	-	的崎 尚	神戸大学	貪食細胞-がん細胞相互作用を制御する新たながん免疫療法の開発
10	応用	ユニット型	令和元年度	-	池田 裕明	長崎大学	がん細胞の遺伝子変異を認識する腫瘍浸潤リンパ球のTCRレパトアと認識抗原解析に基づく効果予測法の確立と、同定TCRによる革新的な個別がん免疫療法の開発
11	応用	ユニット型	令和元年度	-	金関 貴幸	札幌医科大学	プロテオゲノミクスによるlncRNAがん抗原を標的とした革新的免疫治療の開発
12	標的	ユニット型	令和2年度	一次	榎本 篤	名古屋大学	国産既存薬による腫瘍微小環境の初期化および腫瘍免疫誘導法の開発
13	標的	ユニット型	令和2年度	一次	小澤 龍彦	富山大学	ウサギ由来ヒト化T細胞受容体様抗体を用いたがん免疫療法の確立
14	標的	ユニット型	令和2年度	一次	木村 元子	千葉大学	CD69分子を標的とした新規のがん免疫療法開発へ向けた基盤研究
15	標的	ユニット型	令和2年度	一次	小林 栄治	富山大学	リンパ球チップを用いたがん特異的・高機能TCR遺伝子の革新的取得法の開発
16	標的	ユニット型	令和2年度	一次	妹尾 浩	京都大学	マイクロサテライト安定性大腸がんに対するがん幹細胞免疫療法の開発
17	標的	ユニット型	令和2年度	一次	田中 正人	東京薬科大学	制御性単球を標的としたがんの進展・転移に対する治療法の開発
18	標的	ユニット型	令和2年度	一次	田之上 大	慶應義塾大学	抗がん免疫応答を増強する腸内細菌株を用いた治療法開発
19	標的	ユニット型	令和2年度	二次	伊東 剛	東京大学	胆道がんへの治療応用を目指した新規免疫チェックポイント分子の探索
20	標的	ユニット型	令和2年度	二次	北嶋 俊輔	がん研究会がん研究所	MPS1を標的とした免疫チェックポイント阻害剤治療抵抗性を克服するための新規治療法の開発
【研究領域D】 診断/バイオマーカー:患者に優しい高感度・高精度ながん診断法の研究							
1	応用	ユニット型	平成28年度	-	伊藤 悦朗	弘前大学	Down症の急性巨核芽球性白血病発症を予測する革新的バイオマーカーの開発
2	応用	ユニット型	平成28年度	-	今井 浩三	神奈川県がんセンター	新規マーカーによる悪性中皮腫の精密・早期診断の開発
3	応用	ユニット型	平成28年度	-	植田 幸嗣	がん研究会	切除組織培養分泌エクソソームの網羅的解析によるがん早期診断薬開発
4	応用	ユニット型	平成28年度	-	浦野 泰照	東京大学	新規カルボキシペプチダーゼ蛍光プローブライブラリーの構築と臨床検体への適用による新がん診断技術の創製
5	応用	ユニット型	平成28年度	-	落谷 孝広	東京医科大学	がん特異的エクソソームの捕捉による新規体液診断の実用化研究
6	応用	ユニット型	平成28年度	-	中里 雅光	宮崎大学	超高感度尿中微量蛋白質解析技術を用いた肺癌と膵臓癌の新規早期診断マーカー開発研究
7	応用	ユニット型	平成28年度	-	原 英二	大阪大学	腸内細菌を指標とした大腸がんの早期診断方法の開発
8	応用	ユニット型	平成28年度	-	本田 一文	日本医科大学	タンパク質・ペプチド修飾解析による早期がん・リスク疾患診断のための血液バイオマーカーの開発
9	応用	ユニット型	令和元年度	-	牛島 俊和	国立がん研究センター	再バリデーション成功マーカーをコンパニオン診断とした進行食道扁平上皮がんに対する新規併用療法の開発
10	応用	ユニット型	令和元年度	-	寺尾 泰久	順天堂大学	子宮体がんリンパ節転移予測診断マーカーを用いた術中迅速検査技術の開発〜がんと向き合う女性に優しい個別化医療を目指して〜
11	標的	ユニット型	令和2年度	一次	遠西 大輔	岡山大学	マルチオミクス解析による初発ならびに再発DLBCLの治療特異的バイオマーカーの開発研究
12	標的	ユニット型	令和2年度	一次	越川 直彦	東京工業大学	Liquid biopsyによる腫瘍特異的蛋白質分解断片をバイオマーカーとした早期肺癌診断法の開発
13	標的	ユニット型	令和2年度	一次	真田 昌	名古屋医療センター	クローン構造理解に基づいた急性リンパ性白血病に対する次世代微小残存病変評価技術の開発

No.	タイプ	体制	採択年度		研究代表者	所属機関	研究開発課題名
14	標的	ユニット型	令和2年度	一次	中面 哲也	国立がん研究センター	捕捉した血中循環がん細胞の1細胞完全長トータルRNAシーケンス法によるがんの発症(再発)リスク診断法の確立とがん予防ワクチンへの応用
15	標的	ユニット型	令和2年度	一次	松田 陽子	香川大学	肺癌の化学放射線療法効果判定マーカーに関する研究開発
16	標的	ユニット型	令和2年度	一次	三森 功士	九州大学	難治がん特異的エピゲノム変異を標的にしたctDNA検出法の確立
17	標的	ユニット型	令和2年度	一次	谷内田 真一	大阪大学	腸内細菌解析による抗悪性腫瘍剤の有害作用発現予測に関する研究開発
【研究領域E】 がん多様性:がん細胞の不均一性等に対応した難治性がんの治療法の研究							
1	応用	チーム型	平成28年度	-	油谷 浩幸	東京大学	ヒト上皮性腫瘍の発生・進展機構の解明と新規治療標的の同定
2	応用	チーム型	平成28年度	-	小川 誠司	京都大学	大規模シーケンス解析に基づく、造血器腫瘍のゲノム、エピゲノムにおける、空間的・時間的多様性の研究
3	応用	チーム型	平成28年度	-	中村 清吾	昭和大学	NGS技術を駆使した遺伝学的解析による家族性乳がんの原因遺伝子同定と標準化医療構築
4	応用	ユニット型	平成28年度	-	赤司 浩一	九州大学	全てのヒト骨髄系腫瘍に共通するがん幹細胞の不均一性獲得・維持メカニズム解明と治療標的分子探索
5	応用	ユニット型	平成28年度	-	金田 篤志	千葉大学	胃癌発生に重要なエピゲノム異常を標的とする配列選択的小分子の開発
6	応用	ユニット型	平成28年度	-	柴田 龍弘	国立がん研究センター	微小環境多様性に運動する難治がんの分子遺伝学的多様性創成機構の解明と新たながん治療法・予測医療技術の開発
7	応用	ユニット型	平成28年度	-	高倉 伸幸	大阪大学	腫瘍血管正常化によりがん悪性を抑制する治療法の開発
8	応用	ユニット型	平成28年度	-	滝田 順子	京都大学	分子プロファイリングを基盤とした小児期からAYA世代に発症する難治がんの新規治療法の開発
9	応用	ユニット型	平成28年度	-	千葉 滋	筑波大学	血液がんにおける腫瘍細胞と微小環境との相互作用の分子メカニズムに基づく治療標的の標準化
10	応用	ユニット型	平成28年度	-	永野 修	慶應義塾大学	酸化ストレス抵抗性を促進するアミノ酸輸送および代謝経路を標的としたがん幹細胞制御治療法の開発
11	応用	ユニット型	平成28年度	-	畠山 昌則	東京大学	ピロリ菌感染微小環境が誘導する発がんシグナルとその遮断による胃がんの制圧
12	応用	ユニット型	平成28年度	-	矢野 聖二	金沢大学	MAPKシグナル抑制が誘導するフィードバック機構の不均一性解明と制御に基づくKRAS/BRAF変異腫瘍に対する新規治療開発
13	応用	ユニット型	令和元年度	-	石川 俊平	東京大学	液性免疫に焦点をあてた胃癌ゲノミクスの多様性解明と介入法探索
14	応用	ユニット型	令和元年度	-	中川 英刀	理化学研究所	がんゲノム解析による新規免疫療法および複合免疫療法開発のためのシーズ探索
15	標的	ユニット型	令和2年度	一次	籠谷 勇紀	愛知県がんセンター	抗腫瘍T細胞による細胞傷害活性に対する抵抗性に関わるがん細胞の遺伝子プロファイルの網羅的解析と治療への応用
16	標的	ユニット型	令和2年度	一次	片岡 圭亮	国立がん研究センター	がん横断的解析による遺伝子異常の機能的・臨床的意義の統合的理解
17	標的	ユニット型	令和2年度	一次	木戸屋 浩康	福井大学	骨髄アンジオクリンファクターを標的とした白血病治療法の検証
18	標的	ユニット型	令和2年度	一次	河野 隆志	国立がん研究センター	受動喫煙により惹起される肺がんゲノム変異の多様性の理解と治療方針の策定
19	標的	ユニット型	令和2年度	一次	高木 正稔	東京医科歯科大学	乳児急性リンパ性白血病の病態解明と治療層別化にかかわる因子の同定
20	標的	ユニット型	令和2年度	一次	田中 伸哉	北海道大学	バイオマテリアルを用いたがんの不均一性制御の研究開発
21	標的	ユニット型	令和2年度	一次	松田 浩一	東京大学	ゲノム解析による骨軟部腫瘍の多様性の解明と治療標的・バイオマーカーの探索
22	標的	ユニット型	令和2年度	一次	安田 浩之	慶應義塾大学	肺癌オルガノイドライブラリー統合解析による癌の不均一性の解明と新規治療標的の同定
23	標的	ユニット型	令和2年度	二次	中奥 敬史	国立がん研究センター	キナーゼ遺伝子の多段階意義付けによる新規治療標的の探索
【サポート機関】							
1	-	-	平成28年度	-	富田 章弘	がん研究会	次世代がん医療創生研究事業のサポート機関運営
【技術支援班】							
1	-	-	平成28年度	-	野田 哲生	がん研究会	次世代がん医療創生研究における先進技術支援

(敬称略 五十音順)